

# 「生き方によって選びを示す

## あなたの決断【バプテスマ】と新生の道」 I ペテロ3:10-22

### ■ 国民性の違い

ある豪華客船が海難事故に合いました。船長は乗客をいち早く船から降ろすために海へ飛び込んでみましたが、乗客はそれぞれ文化の違う国から集まった人たちでした。そこで船長は、アメリカ人には「今すぐに飛び込んでください！ そうすればあなたは英雄です！」イギリス人には「飛び込めば、あなたは紳士です！」イタリア人には「飛び込めば、あなたは女性にモテモテですよ！」と言いました。

では日本人にはどう伝えますか？ 答えは「今すぐ海に飛び込んでください！ みんな飛び込んでいますよ！」なのです。日本人は周りに流される国民性だということがよくわかりますね。それは人生に問題を招いているかもしれません。私たちは周りが、していなくとも行なっていく者になりたいのです。

### ■ 自由人としてどうふるまうのか？

先週まで私たちは自由人としての生き様、ふるまいについて学びました。自由とは思うようにふるまうことではなく、自分がその目的を果たすためにどう生きるかを決断できることです。私たちが目的を失うと頑張ってもうまくいきません。ですから自由というものを理解しなくてははいけません。その目的を知るために目的を持っている人の言われている言葉に「従うこと」そしてそのように役割を持って生きる人たちに「敬うこと」でありその根底には兄弟たちを「愛すること」が必要です。そして立てられたリーダーたちを「尊ぶこと」が必要なのです。

『最後に申します。あなたがたはみな、心を一にし、同情し合い、兄弟愛を示し、あわれみ深く、謙遜でありなさい。悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。I ペテロ3：8～9』

私たちは相手を上から目線がかわいそうと言うのではなく、理解して自分が共有し、寄り添って愛そうとします。憐れみ深く、謙遜であることが必要です。特に近い人から侮辱をされたと感じた時に私たちの謙遜は試されます。謙遜を失うと本質からずれていくのです。

### ■ 正しい言動

『いのちを愛し、幸いな日々を過ごしたいと思う者は、舌を押さえて悪を言わず、くちびるを閉ざして偽りを語らず、悪から遠ざかって善を行い、平和を求めてこれを追い求めよ。I ペテロ3：10～11』

「偽りを語らず」聖書の偽りとは「心の中の思いと反対のことを言うこと」です。私たちが幸いな日々を過ごしたいと思うなら、自分の本来の目的・思いとは違うことを言うのではなく良心に従って自分の心の中にある本音のことばを話すことです。本当に大切なものがあるなら偽りがある必要はありません。特に何かが起こった時こそ「舌を制せず悪を言う」ことを「もうしない」と決断する必要があります。間違った言動をすれば、それは後に大きな傷になっていきます。私たちの心の根底が変わらなければ相手に対する言動や態度は変えられないのです。「善を行う」ことは生きる為に必要なことです。そして「平和」は追い求めるものです。

### ■ 慎み備える

『いや、たとい義のために苦しむことがあるにしても、それは幸いなことです。彼らの脅かしを恐れたり、それによって心を動揺させたりしてはいけません。むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちに希望について説明を求めると人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしておきなさい。ただし、優しく、慎み恐れて、また、正しい良心をもって弁明しなさい。I ペテロ3：14～16』

最善を尽くすためには私たちに違う方を選ばない決断が必要です。仕事や名誉を求めるのではなく、良い事のために苦しみを受けるならそれは喜ぶことです（義のために迫害される者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。マタイ5：10）善と平和を求めるなら必ず理解されます。屈辱に屈辱で答えるように相手に裁くのではなく、記憶をしっかりと整理して意思をもって、そのために説明できるよう慎み恐れて備えておく必要があります。人生を変えたいのであれば慎むべきです。

『もし、神のみこころなら、善を行って苦しみを受けるのが、悪を行って苦しみを受けるよりよいのです。キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、私たちが神のみもとに導くためでした。I ペテロ3：17～18』

これがキリストの十字架のストーリーです。「身代わり」には「抱きしめる・優しく慰める」という意味があります。彼が十字架に向かう時、自分を罵る者を優しく慰め、自分を裏切った者を赦し、慎みをもって正しい良心をもって教えました。正しい良心は罪人に伝わった時にその行いが罪であることを教えます。

### ■ 記憶の整理

その為に、本能（不平）によって決めつけた記憶を整理する必要があります。イエス様によって赦され優しく包まれていることを受け取り、良心による本心によって「意思を持って整理」するのです。私達の記憶は多くの場合が被害者としての記憶です。誰かに言われたりされたりした記憶はあるのですが、自分がどうだったか？を振り返る事をしません。「意思を持って整理」とは、その出来事の中で自分がした良くなかった事を振り返り、自分の良くなかった事を知る事です。私達はそのように良心により記憶を整理した時に生き方を変える事ができます。

### ■ 正しい決断

『昔、ノアの時代に、箱舟が造られていた間、神が忍耐して待っておられたときに、従わなかった霊たちのことです。わずかに八人の人々が、この箱舟の中で、水を通して救われたのです。そのことは、今あなたがたを救うバプテスマをあらかじめ示した型なのです。バプテスマは肉体の汚れを取り除くものではなく、正しい良心の神への誓いであり、イエス・キリストの復活によるものです。キリストは天に上り、御使いたち、および、もろもろの権威と権力を従えて、神の右の座におられます。（I ペテロ3：20～22）』

バプテスマとはとても大切な sacrament（儀式）ですが、何かが変わるわけではなく、当時ナーマン将軍が、らい病にかかってしまい、預言者によって、汚れたヨルダン川に七度体を浸けなさいと言われて拒否します。ですが信頼ある部下の助言によりそれを行い病は癒されました。ナーマン将軍にとっては「世俗」という意味を持つヨルダン川に「完全なる」意味を持つ7度浸かることは屈辱的な行いでしたがそれをする事で自分のプライドに完全に死んだのです。これはひな形の一つにすぎませんが、後にバプテスマのヨハネによって人々は自分を捨てる決断（バプテスマ）を授かっていきます。これは昔の生き方を捨てる決断です。

私たちは決断をし、愛をあらわす者へと変えられるのです。私たちが自分のしたことが間違っていたことに気づけなかったためにイエス・キリストは代わりに十字架に進み私たちに示されました。私たちは生き方を選ぶことができます。イエス・キリストが私たちに教えてくれたのは自らの関係の回復であり本当の生き方なのです。

### さいごに

神聖ローマ帝国の皇帝フリードリッヒ二世は、人間は生まれた時から何かしらの「言葉」を持っていると信じていて、その言葉を確かめたかったので、ある恐ろしい実験をしました。部下に50人の生まれたばかりの赤ちゃんを集めさせ、部屋に隔離し乳母たちに、下記の条件で実験を行うように指示しました。

● 赤ちゃんの目を見てはいけない・笑いかけはいけない・話しかけてはいけない・ミルクを与える・お風呂に入れる・排泄の処理をする  
つまり衣食住、生きるための世話はきちんとするけれど、スキンシップは一切取ってはいけないというものでした。結果は悲惨なものでした。3歳までに49人、6歳までに1人、なんと全員が生きていることが出来なかったのです。この事からも人間は衣食住が与えられてもそこに愛情や人間的出会いがないと生きることができないのです。

人を裁いているなら王様です。私達は良心によって記憶を整理し愛を現す決断をしましょう。自分の非を認めて放蕩息子の父の元に戻るように、私達が神様の元に戻るとき関係が回復し私達も本来の姿に戻ります。それが真の礼拝です。この恐ろしい実験を元に作られた「パワー・オブ・タッチ（ふれあいの力）」を紹介いたします（※ここには載せませんが興味のある方は見てみて下さい。）

今日、私達は悪を捨て・善を行う、愛を現す決断をしましょう。二度と古い自分を生き返らせない決断（バプテスマ）と行動によって新生の道が用意されています。

（要約者：西崎 真由美）

（2021年5月23日）